“こうあるべき”との意識を変え 誰にも自由な「人生の選択肢」を

4面から続く

また日本は、政治家や管理職になる女性が少ないことが目立ちます。それは能力の問題では決してありません。女性からは“家庭生活との両立が難しい”との声をたくさん聞きます。昇進の機会があっても、育児や家事とのバランスが取れず、キャリアアップを諦める女性が多いのです。

――固定観念や慣習を変えていくのは、簡単ではありません。

そうですね。良い制度や法律ができても、すぐに社会全体が変わるとは限りません。

例えば、国連が採択した「女子差別撤廃条約」を、1980年代に日本も批准しました。これを契機に、男女雇用機会均等法が成立しました。ほぼ40年前の話ですが、今もたくさんの課題があります。

SDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」に関しては、誤解が多いように感じます。特に「女性のエンパワーメント」の話をすると、「女性ばかり優遇する話ではないか」「男性はどうなるのか」といった意見が寄せられることがあります。

しかし、私たちが目指しているのは、長年存在してきた男女間の社会的・文化的なギャップを「解消」することです。決して女性を優遇することではありません。ジェンダーギャップは、女性だけの問題ではなく、社会全体の問題なのです。男性も、いかにこの課題に主体的に向き合うかが非常に重要です。

育児休業を例にとると、男性ももっと自由に取得できるようになるべきです。育休制度は整ってきましたが、現実には「取りにくい環境」がまだある。これを改善するには、雇用主側の工夫、上司や同僚の理解が欠かせません。

最近は、一つの型にはまらず、家族に合った解決策を夫婦で考えられる時代になりました。これはとても素晴らしいことです。

女性の社会進出を考えるのであれば、男性の働き方も変える。女性が社会で活躍するのと同時に、男性が家庭でも活躍し、子どもと過ごせる時間を増やせるようにする――そうでなければ、女性の社会進出に取り組んでも、ますます女性の負担が増えるだけです。

“自分ごと”として

――ジェンダー平等の推進のために、UN Women はどのような取り組みに注力していますか。

まずは、ジェンダー平等を推進する運動に男性の関与が大使である俳優のエマ・ワトソンさんのスピーチを通して、男性に向けて支持を呼びかけ、広く認知されるようになりました。

現在は男性に限らず、全ての人々を対象としたジェンダー平等への活動に発展し、グローバルな成功を収めています。日本でも、もっとこのキャンペーンを展開したいと思っています。

北京で開催された世界女性会議から30年となる本年へ向けたイベント。2024年9月の国連総会の関連行事として開かれた（ニューヨークの国連本部で）　©UN Women/Rachika Chalasani

また、「アンステレオタイプアライアンス」（有害な固定観念を撤廃する連帯）という取り組みもあります。これには、メディアや広告における有害なステレオタイプをなくしていく世界的な活動で、20年には日本支部が発足し、複数の企業がステレオタイプのない社会を目指して取り組みを加速させています。

近年、従来の“女性らしさ、男性らしさ”に違和感を持つ人が増えてきていますよね。例えば「洗濯」など家事の広告には、女性が出てくるとか……。これも“こうあるべき”という一種のステレオタイプです。

ジェンダーに限らず、障がいのある方への偏見など、あらゆる差別をなくしていく。そうすることで、「DEI（ダイバーシティ〈多様性〉、エクイティ〈公平性〉、インクルージョン〈包括性〉）」の意識をもっと高めていきたいですね。

――福岡さんにとって「平等な社会」とは、どのようなものでしょうか。

平等とは、「同じ選択肢がある」こと。そして「選ぶ自由がある」ということではないでしょうか。例えば、ある家庭で、男の子と女の子がいたとしたら、「あなたは女の子だから大学に行かせない」「長男だから特別扱いする」といった偏った考えをなくし、全ての人に公平な選択の機会を与えることが、平等の本質だと思います。

世界ではまだまだ、割り当てられた性別によって、歩める人生が全く異なるという実情があります。一人一人が“自分ごと”として「社会を平等にしたい」と心から思わない限り、本当の意味での平等は実現しません。

――最後に、読者へのメッセージをお願いします。

25年は、1995年に北京で開催された「第4回世界女性会議」から30年という大きな節目の年です。この会議では、世界189カ国が女性の生活を向上させるための国際的な政策の枠組みに合意しました。そして、25年の「第69回国連女性の地位委員会（CSW69）」では、これまでの取り組みの進捗状況について、世界規模の検証が行われます。UN Womenは、これに向けたイベントの開催や、パートナーシップの構築など、幅広い活動に力を注いでいます。

ジェンダー平等は、SDGsの全ての目標に横断的に関わっています。喫緊の課題として、今一度、皆さんに深く考えていただきたいテーマです。

特に若者の皆さんの役割は極めて重要です。次世代を担う皆さんの声が、社会に大きな変革をもたらす鍵となると信じています。

世界各地で行われている、女性のエンパワーメントを目指したワークショップやトレーニング（左上から時計回りにザンビア、アフガニスタン、ウクライナ、ミャンマー）　©UN Women

日本における公式支援窓口
国連ウィメン日本協会

国連ウィメン日本協会は、UN Womenを支援することを目的として設立された認定NPO法人です。UN Womenの活動を広報するとともに、国連加盟国の拠出金だけではまかないきれない活動資金を民間から支えるために、募金活動を行っています。同協会の概要については上の画像を読み込むと閲覧できます。

抗ウイルス・抗菌加工サービス

無色透明なため、風合いを変えず、あらゆるモノ・素材に、施工が可能です

SIAA
ISO 21702
抗ウイルス加工
Anti Virus
抗ウイルス
抗菌加工
Anti-virus + Anti-bacterial
SIAA
ISO 22196
抗菌加工
for KOHKIN
日本図書輸送株式会社　SEIKADOU SRW-30

長期的な衛生対策をご提案いたします

- 屋内の机・イス・ドア・手すりや、自動車・バスなどの車内に施工可能
- 無光触媒で、24時間・365日働き続ける効果
- 3～5年の効果が継続する持続型の衛生対策
- 触っても、口に入れても安全　※急性経口毒性試験により安全性を確認

60th ANNIVERSARY Goto100 ともに未来へ!

SIAA抗菌製品技術協議会　正会員
日本図書輸送株式会社
フリーコール（全国共通）0120-210-840（ニット ハシレ）
https://www.nty.co.jp/

※株式会社清華堂の「SEIKADOU SRW-30」を使用し、当社の専任資格者が施工いたします　※「SEIKADOU SRW-30」は株式会社YOOコーポレーションが製造しています